

介護福祉士養成校におけるフィールドワーク型 リカレント教育の取り組み

仲田勝美・小野 隆・権 法珠・根来民子
戸田順子・滝口笑子・稲垣美保子

要旨 本報告は、卒業生を含む介護職員らの自己研鑽への意欲に応えるべく機会と場の提供を通して、介護職員の専門性向上におけるリカレント教育の内容や具体的な実施方法を明らかとし、介護福祉分野のOJT教育実践や研究に示唆を与えることを目的とする。その方法として、地域の施設に出向き、学習を深めるというフィールドワーク型リカレント教育を実施した。

キーワード フィールドワーク型リカレント教育 介護福祉士 24時間回想法
老人・子ども統合ケア スーパートランスファー

1. はじめに

本学人間福祉学科は開設以来愛知県を中心に多くの有能な人材を輩出してきた。卒業後においても教員とのつながりや学科教育・行事等への参加の過程で、すでに職場のリーダーとしてその職務に携わっていたり、介護支援専門員（ケアマネジャー）としての一步を踏み出そうとしていたり、介護福祉士としての専門性の探求・自己研鑽に励んでいる声やその成長した姿を確認している。そして卒業生の所属する職場の同僚、先輩、後輩においても積極的な自己研鑽の姿勢が顕在化しているとの声を多く確認してきた。また本年4月より社会福祉士及び介護福祉士法の改正がなされ、業務規定の見直しの中に新たに「自己研鑽の責務」の条文が盛り込まれた。

一般的にリカレント教育とは、主に学校教育を終えた後の社会人が大学等の教育機関を利用した教育のことを指す。本学の所在する愛知県においては、リカレント教育の振興方策について、愛知県生涯学習審議会は2期目を迎え、平成7年9月12日に愛知県知事と愛知県教育委員会から「リカレント教育の振興方策について」の審議依頼を受けた。そこで、同日付けで学習者と産業界、労働界及び高等教育機関の関係者からなるリカレント教育専門部会を設けて集中的、効率的に検討するとともに、多面的な審

議に努めてきた。その結果をここに報告として取りまとめており、その中で「大学等高等教育機関におけるリカレント教育推進の考え方」を「リカレント教育に求められる高度で専門的な知識・技術を体系的に提供する機関として、大学、大学院、短期大学、高等専門学校、専門学校の高等教育機関（以下この項において「大学等」という。）への期待は極めて大きい。また、リカレント教育の推進によって大学等が地域や社会生活と密接にかかわり合うことは、その教育と研究が直接に社会のために生かされるだけでなく、大学等にとっても、社会の側から教育と研究についての様々な示唆を得ることができるなど、大学等の活性化を促す方策として期待することもできる。」²⁾とその重要性についてふれている。そのことを短期大学である本学の人間福祉学科における介護福祉士養成の立場からすると、介護現場に従事する卒業生をはじめとする関係機関職員に対し、大学の教育力を活用し、スキルアップ・自己研鑽・啓発活動の一環となることが期待される。また介護職員一人ひとりが必要なときに、必要なところで、必要な教育にアクセスできることを目指すリカレント教育は、現実的な教育実践といえる。

現在、全国の介護福祉士養成施設においても、それぞれの養成施設の社会的責務や独自性の担保のために様々なリカレント教育がなされている。その実際はインターネット上にアクセスすれば一目瞭然で

ある。また、介護福祉士養成においてはリカレント教育という言葉より「卒後教育」という表現がなされており、その意味は前者と同様であると認識できる（よって本稿ではリカレント教育と同義の意味として卒後教育を用いる）。

例えば、日本介護福祉教育学会では、毎回全国大会における分科会において卒後教育がテーマとして取り上げられ、各養成施設の研究発表がなされている。

介護福祉士養成校におけるリカレント教育の実践研究として鍋島ら（2007）は卒後教育に在校生を参加させることで、得られる相互的教育効果について言及しており、またどのようなプログラムを設定するか、その創意工夫が重要であると論じている³⁾。このような見解は本学科においても議論された中心的な課題であった。また峯尾（2003）は、開催場所に関して施設、事業所に向くことの重要性にふれている⁴⁾。このような考え方は、後述するが、本学科の運営方針に照らし合わせた時、有意義な知見であり示唆に富むものであった。他方、蒲池ら（2006）のケアマネジャーを対象とした調査報告によると、看護師資格のケアマネジャーよりも介護福祉士資格を有する者の方が継続的学習意欲の高さが見られる傾向にある一方で、そのような要望に応える卒業後教育の環境不備を指摘しており、その整備が急務と論じている⁵⁾。筆者らは、介護福祉士資格のケアマネジャーの学習継続意思が高いということの背景にはそれにええられていない学習環境の不整備にあり、その反映された意識が学習継続の意識の高さとして表出しているものと認識できることから、手放して喜べる実情ではないと考える。

2. 本報告の目的

本学科開設以来、卒業生のリカレント教育の意向について卒業生を対象とした意識調査を過去2回行い、その結果から、取り組むべき課題であるとの必要性を認識しつつも、その実現には至っていなかった⁶⁾。しかし、介護現場において自己研鑽の意欲を持った卒業生や職員の姿に応えることは、本学科としての社会的責務のひとつとして、再認識し直し、

その現状を打開すべきではないかという議論がなされた。いわば本学卒業生らを取り巻く社会的な動向の変化に即して、本学科の教育力を本格的に発信する時期であるとの学科教員間の共通認識の形成が、多くの議論をふまえる中で強固なものとなったのである。本学科教員個々の専門性の高さとその領域の広さは、社会的にも認識されており、地域に対するその貢献度は高いものと思われる。また我々は、愛知県下の介護福祉士養成施設を見渡してもそのような多様で高度な専門教育者を置いた養成施設はないと思われる様に日々努力してきている。

そこで本報告は、卒業生を含む介護職員らの自己研鑽への意欲に応えるべく機会と場の提供を通して、介護職員の専門性向上に資するリカレント教育の内容や具体的な実施方法を明らかとするための帰納的な研究方法の取り組みであり、介護福祉分野のOJT教育実践や研究に示唆を与えることを目的とする。

3. リカレント教育の方法

(1) 先進モデル施設・実践の視察

現在、介護実践は多様な様相を見せており、体験を通じて、その一端に触れることが卒業生の教育効果を向上させる方法論として認識することもできることから、本学でこれまで行われていた福祉フェスタや福祉まつりにおける座学形式のリカレント教育という性質のものよりも、実際に先進的な介護実践に取り組んでいる機関への訪問学習というフィールドワーク型のリカレント教育の方向性としたこととした。このような視点は、本学科が学科運営の理念とする積極的な地域貢献と学習の実践過程から導き出されたものであり、本学科の実績を基盤としたものである。

以下の二つは、今回のリカレント教育における視察先の施設および着目した実践である。

1) 指定介護老人福祉施設高浜安立荘における実践—24時間回想法および新しい移乗介護技術—

本学科の介護実習施設として契約している指定介護老人福祉施設高浜安立荘（以下高浜安立荘とする）は「24時間回想法」⁷⁾に取り組んでいる施設であり、新聞・テレビにおいても報道されている実績がある。

また、高浜安立荘では新しい移乗介護技術として「持ち上げない介護技術」^⑥＝新・移乗介護（スーパーランスファー）を日常の介護場面において実施しており、また精力的な施設運営がなされていることから、リカレント教育の効果が十分に期待できるため視察先として選定した。

2) よしいけ保育園・デイサービスセンターにおける実践—老人・子ども統合ケア—

高浜安立荘と同市内に、よしいけ保育園・デイサービスセンターが在り、そこでは同敷地内に保育園とデイサービスセンターが併設されている。そこに通う子どもと老人の異世代間交流、いわゆる「老人・子ども統合ケア」^④が日常的になされており、注目に値するものであると認識し視察先として選定した。

そして上記の両施設が同市内に在ることで、アクセスの利便性も確保できることから、両施設への視察を1日のプログラムとして設定することが可能となった。

(2) 卒業生同士の交流の機会

また当日は、プログラムに参加する過程で卒業生同士の交流を深めることも目的とし、交流会の場を設けた。ここでは特に卒業年度をまたいでのいわゆる「縦のつながり」の強化を目指した。

4. リカレント教育の具体的内容

以下、リカレント教育の具体的内容についてふれることとする。

(1) 期日

2009年10月2日

(2) 参加者

各教員の卒業研究（ゼミ）に所属していた卒業生から参加者を募り、計18名の参加が得られた。卒業生の構成として第1期生が1名、2期生3名、4期生1名、5期生6名、6期生4名 他、本リカレント教育に興味を持ち参加意向のあった卒業生の職場の同僚1名の参加も得られた。

3) プログラム

10：00－12：00

高浜安立荘視察

内容

- ・24時間回想法見学
- ・新移乗介護見学および実施体験

12：00－13：00

・昼食会（卒業生交流会）

13：00－15：00

よしいけ保育園・デイサービスセンター視察

15：15－16：30

・卒業生との意見交換会

終了

5. 満足度および効果測定のための参加者アンケート調査

今回のプログラムについてのアンケートにより、リカレント教育の満足度およびその効果を調査した。

6. 視察の実際

以下、視察の様子について録音記録から抽出し、写真を交えながらポイントを絞り記載することとする。

(1) 高浜安立荘における「24時間回想法」について

- ・以前テレビ番組で取り上げられていたので、参加者の中には前もって「24時間回想法」をある程度までは知っている者も多く、見学できることを楽しみにし、期待していた。
- ・「24時間回想法」＝1階でのデイサービスは「思い出横丁」；2階での特別養護老人ホームとショートステイは「昭和横丁」と呼ばれている。
- ・施設の特徴は従来型の特養であり、新設の個室ユニットというものではないが、その中でも極め細やかな介護をしていこうということ、そして、認知症の方であっても人としての尊厳を大切にするというところで、「24時間回想法」の取り組みが始まっている。

- ・「日本一認知症の方に優しい施設になろう」というスローガンを掲げている。
- ・「24時間回想法」が始まり、3年目となる。「昭和横丁」が始まり3年、「思い出横丁」は昨年始まった。デイサービスの方も昭和の雰囲気を作っている。
- ・何もないところでお話をするよりも、造り込みのあるところでお話をしたほうが利用者の方に色々と感じてもらえる部分が多いということで、施設の中を改修し、臨場感を持って取り組んでいる。
- ・「24時間回想法」には色々な種類があるが、メインは「パソコン回想法」である。パソコンの画面を使い、その画面の中で24シーンがあり、生活のご飯の部分や遊びの部分、学校の暮らしの部分などという分類になっている。利用者の方のお話ができるところで話を広げていき、昔を楽しく思い出してもらおうということを行っている。
- ・「パソコン回想法」は、日本福祉大学高浜専門学校の作業療法士の来島修志先生に監修、パソコン回想法のソフト自体は、大府と東浦にある国立長寿医療センターの遠藤英俊先生の協力で作上げたものである。例えば、生活の場面で洗濯のシーンがある。たらいの絵をクリックするとたらいの絵がアップになり、さらにたらいをクリックすると洗濯板がアップになってくるといように、画面を見ながら順番に進んでいくというパソコンソフトである。
- ・利用者の方に昔を思い出していただくため、パソコンの画面に出てきた昭和の品々を実際に手元に取り、その感触を確かめながら、回想法を深めている。
- ・1階デイサービスのホールにある回想法コーナー「思い出横丁」にて、男性職員1名とデイサービス利用者の方々5、6名で回想法を実施している様子を見学した（写真1）。
- ・施設の形態として従来型の特養ではあるが、100人の利用者と職員との関係を近くし、利用者の方に満足いただけるサービスを提供していくため、大きく4つのグループに分け、グループケアと呼ばれる形態で実践している。



写真1 高浜安立荘「思い出横丁」におけるパソコン回想法の様子

- ・終末期介護については、本人家族が希望されれば、施設の中で最期を迎えさせていただくというようなターミナルケアの取り組みも実施している。
- ・自立支援「オムツ外し」については、特養に入所したら、「特養はオムツを外す施設であるとの位置づけを世の中にアピールしていこう」という講習会に職員が参加し、オムツを減らしていくことに取り組んでいる。

(2) 高浜安立荘における「新・移乗介護」について

- ・「新・移乗介護」（スーパートランスファー）の導入のきっかけは入浴介助であり、銭湯の様に広いお風呂から個人浴、個浴と呼ばれるお風呂に切り替えていることからである。
- ・身体に障害のある方に、一人用の小さいお風呂に入ってもらって、浮力を使ってゆったり入れたり、手すりにつかまったり足を延ばしたり、逆に足がついて安定したりというお風呂を目指し実践をしている。その中で、介護職員が無理な体勢で引き上げたりすることによる腰痛など、体を痛めてしまうことがあるので、それを防ぐために専門のテクニックを学び、介護専門職員にも優しく、利用者の方も安心して介護を受けられる仕組み作りを行っている。
- ・お風呂、ベッド、椅子からの移乗といったものを、定期的に研修会を実施しながら行っている。

<実習の様子>

- ・職員のデモンストレーションを見た後、参加者

全員が実際に実技の体験研修をさせていただいた。以下は参加者が実習をしながら、職員の方と施設長から説明や解説をしていただいた内容である（写真2）。

- ・利用者を持ち上げず、後ろに体重を掛けることで利用者のお尻が浮く。また、無理に持ち上げると自分も辛く利用者の方も辛いので、立ち上がる時には利用者の上体が前傾になった状態で立ち上がるという基本を忘れなければ上手にできる。
- ・職員の腰痛予防が課題となったときにスーパートランスファーの講師を呼び、講習会で職員研修を行い、それから職員同士で練習し取り入れるようになった。
- ・新人研修や全職員対象でトランスファーの研修を行っている。
- ・学校で学んできたスパートランスファーではないことを無理やり行なったり、時間がないといって力任せにやったりすると、腰を痛めやすい。
- ・移乗は利用者に合わせ、色々なテクニックを使うので職員は様々な引き出しを持っているが、テクニックを組み合わせることで、ここできたからといって実際に現場でできるとは限らない。
- ・現在愛知県の団体でも北欧式のトランスファーテクニックやデンマークのものを勉強しており、講習会をしてみんなで学んでいる。
- ・利用者の方が一番安心であればどのテクニックを使ってもいいのではないかと。利用者の生活の場なので、利用者のために自然に学ぼうとする



写真2 スーパートランスファー体験実習の様子

し、学ばないほうがおかしい。

(3) よしいけ保育園・デイサービスセンターにおける「老人・子ども統合ケア」について

- ・新型インフルエンザ対策の意味もあり、職員の方々から施設の様子をパワーポイントのスライドを使用しながら発表いただいた（写真3）。以下にその様子を記す。

〈葭池デイサービスセンターの紹介〉

- ・現在1日の定員は40名で、利用は月曜日から土曜日までとし、日曜のみお休みとなっている。
- ・デイサービスの特徴は、利用者一人一人に合わせた個別ケアに力を入れていることである。朝の送迎時間は、利用者が希望される時間に迎えに行き、帰りも希望される時間に送るといった形をとっている。
- ・介護保険は2時間～3時間、3時間～4時間、4時間～6時間という細かい時間区分があり、そのように請求をしているが、中には、本当に短い2時間以上3時間未満で使われている利用者の方も多いため。その理由として、介護度が重くなると、お風呂やりハビリだけをしてほしいという方などがみえるので、そういう方から、一日ゆっくりしたいと言われる方まで個別に対応している。
- ・デイサービスとしてのサービスで、モーニングケア、ナイトケアもやっており、朝7時半～夜19時半までの対応も行っている。
- ・朝の食事は、自宅で食べてきていただくか、お弁当を持ってきていただいている。夜のナイト



写真3 スライドを使用した2施設に関する説明の様子

ケアの食事は、家族からお金をいただき、そのお金で利用者の希望される食べたいものを職員が注文を取り、職員が買い出しに行き、夕食を提供している。

- ・介護予防の方に対して、健康運動指導士によるストレッチや軽運動、筋力トレーニングなども行っており、マシンも入れている。
- ・定員は40名で延べ人数が930～940名ぐらい、延べ人数でいくと登録利用者が100名弱で、97～8名の方が登録されている。その中で4分の1が介護予防の方で、4分の3の方が介護保険の方で、男性利用者もかなり多い。普通のデイサービスでは、男性利用者は1割～1.5割ぐらいだと思うが、月水土は利用者の半分が男性利用者の方がみえており、今日も男性利用者の方が多い。
- ・男性利用者が多い理由として、一人一人に合わせた個別の対応をしているからだと考えている。普通のデイサービスでは、朝お迎えに行き、バイタルサインを採り、午前中にお風呂に入り、食事をし、昼からレクリエーションをやり、おやつを食べ、お送りするというパターンが多いが、葭池デイサービスセンターは個別でやっているのです。午前中にお風呂に入りたい方は午前中に入ってもらい、午後からお風呂に入りたいと言う方には午後から入ってもらっている。
- ・午前中のレクリエーションも今残されている残存機能の中で、やれることをやっていただいている。午後からも2時～3時にかけて1時間のプログラムがあるが、それに参加される方は参加していただき、参加したくない方には一人一人に個別で職員が対応している。
- ・職員が介護のプロとして、利用者の希望を尊重するケアを目指してやっている施設である。

〈よしいけ保育園の紹介〉

- ・デイサービスと併設という形であり、定員120名の保育園である。
- ・よしいけ保育園の周辺は、隣が県営住宅で、裏の方が建て売りでどんだん家が建っている。少子化といわれる時代でも、子どもはたくさんおり、今年は定員オーバーの128人が入っている。
- ・来年も定員オーバーになるのではないかと予想されている。

- ・7時～19時までやっている保育園で、高浜市の中では、最長の12時間保育をしている。他の園は、夜は19時までやっているが、朝は7時半からやっている園ばかりであり、この地域はトヨタ系に通う方がみえるため朝7時からやっていると困るという方がよしいけ保育園にたくさん来ている。
- ・乳児保育や障害児保育という形で、1対1で受け入れることもしており、自閉症のA判定の子であってもこの園に来られるようになっている。今年も一人だけであるが、1対1対応の重度障害児の子を受け入れている。それ以外にも一時保育や、簡単にいうと託児所のようなイメージで、冠婚葬祭や、ちょっと遊びに行くときに預けるという一時保育ということもやっている。毎日7～8名が利用している。
- ・子育て支援センターも一緒にあり、午前中いつでも遊べるスペースがあり、親子で遊びに来るような形で、地域の方が色々な形態で活用できるというような保育園である。
- ・保育園でも色々特色を持ってやって行かなくてはいけないということで、色々なことに力を入れている。
- ・リトミックや体育指導、「英語で遊ぼう」というECCの先生に来てもらい、英語授業を年長で取り入れており、幼稚園でやっているようなものと同じイメージで取り入れてやっている。
- ・行事は子どもたちに色々なことを経験させたいということで、夏祭りをやっている。地域の住民の方や小学生たちを巻き込み、みんなが遊びに来られるような形でおこなっている。
- ・お泊り保育は、年長になり少し経ってから行っている。食事はどのようなものを作るかなど話し合い、当日はグループ毎で食料品店まで買い物に行き、カレーの材料を買い、料理をしてカレーをみんなで食べ、一泊している。
- ・10月末の活動として仮装をして遊び、ハロウィンパーティーをやっている。
- ・「ちびっ子警官」になり、警察の交通安全指導をおこなっている。年長さんたちは服を貸していただき、パトカーの前に立って記念写真を撮る。
- ・食育では、外でサンマを焼いたり、流しソーメ

ンを体験したりする行事がある。流しソーメンは、孟宗竹を東浦まで取りに行き、園庭に並べ、子どもたちと流しソーメンを楽しんでいる。このような経験をすることで、食べ物に関して子どもたちが色々興味持つことができるように工夫している。

- ・色々な特色を出し、高浜市の地域の中でやっつけられる保育園ということを目標にしながら、保育園を運営している。

〈複合型施設の様子を紹介〉

- ・デイサービスと保育園との合同の行事として、本当は5月に子どもの日があるが、連休が続いてしまうので子どもの日祭りということで4月下旬におこなっている。その時におじいちゃんたちにカブトを折ってもらったり、昔ながらの遊びを披露してもらったりしている。
- ・6月はデイサービスで新茶会をおこなう。年中の子どもたちも一緒においしい茶の香りと味を味わわせていただいている。新茶会の間、子どもたちは毎日デイサービスにお茶出しに来る。子どもたちがお盆の上にお茶を持ち、お年寄り一人一人にどうぞと言ってお渡しする。
- ・保育士がお茶娘に扮して、「夏も近づくと八十八夜」という歌を歌いながら、トントンと踊るとお年よりもこのときは本当に嬉しそうな顔で答えてくれる。
- ・日常の様子では、子どもたちがいい表情でお年寄りと遊んだり、お年寄りが描いている絵を見てすごいと言ったり、子どもたちが尊敬の念をお年寄りに自然に持つようになる。
- ・7月は七夕会で、このあとに流しソーメンで楽しむ。七夕会ではデイサービスの職員と保育園の職員と劇をして子どもたちを楽しませている。楽しんでいるのは大人だったりすることもあるかもしれない。
- ・お泊り保育で子どもたちの大好きな時間が、葭池デイサービスのお風呂に入ることである。子どもたちが大喜びで、所長がひと肌もふた肌も脱ぎ子どもたちを楽しませている。
- ・夏祭りも葭池デイサービスと保育園との合同で、今年は「葭池のど自慢」と称し、お年寄りが歌を歌ったり、子どもたちが出し物で歌を歌った

- りと、夏祭りの中で織り交ぜておこなっている。
- ・敬老会では、職員が桃太郎の劇をし、桃の中に保育士が入り、おばあさん役やおじいさん役がデイサービスのお年寄りだったりして、アドリブでお年寄りたちが職員と一緒に演じている。お年寄りも子どもたちから活力をもらったり、子どもたちも優しい気持ちにさせられたり、そのような相乗作用があるのではないかと考えている。また、敬老会のときには、子どもたちがお年寄りにプレゼントを作り、お年寄りに渡す。
- ・合同運動会では、保育園の運動会に、デイサービスのお年寄りもできることを深くしてもらっている。子どもたちがお年寄りの手を引いてパン食い競争のところに誘導するというを自然にできている姿に、職員もデイサービスと保育園とが隣接しているという意味を感じさせられる。最後のメダルは、お年寄りの方たちが手先を使い素敵なメダルを作ってくれ、運動会の日が来るのを今か今かと待っている。
- ・「秋刀魚パーティ」をなぜ始めたかという、味覚や嗅覚などの色々な五感を子どもたちが働かせながら育てていってもらいたいという願いを込めたいからである。中にはお年寄りの方から張り切ってサンマを焼きに来てくださる姿もあり、園庭いっぱい焼かれたサンマをお年寄り子どもたちがほおばっているという光景が恒例として続いている。
- ・「焼き芋パーティ」も同様で、園庭いっぱい焼き芋の香りが漂っている。5月にみんなで苗を買いに行き、デイサービスに通ってきているおじいちゃんの畑を貸していただき、買って来た300本の苗を0歳の子から、5-6歳の子たちまでで植え、育った大きなお芋を園庭でおじいちゃんおばあちゃんも一緒に焼いている。
- ・英語では英語の先生が無理やり教えるのではなく、言葉に親しむということを意図しており、日本語だけでなく、こんな言葉があるよ、こんな風に言葉のやり取りをしたら面白いよ、これが英語というものだということを、遊びながら教えている。この英語が10月下旬のハロウィンパーティに続いている。
- ・「ハロウィンパーティ」では、お母さんもとても

張り切り、わが子を一番立派にしようと飾り立てているが、今年は抑え目にし、家にあるものを見繕ってやるようにと声を掛けている。この様に仮装してきた子どもたちがデイサービスの方に行くと、おじいちゃんおばあちゃんは目を輝かせて喜んでいる。職員が仮装するよりも子どもたちが仮装してきた方が、利用者さんのおじいちゃんおばあちゃんたちの表情が明るくなり、利用者さんの表情もさらに豊かになる。デイサービスの中でも、このハロウインのときに仮装し、日々の行事の中で職員も利用者も一緒になって日々楽しく過ごしている。

- ・12月に葭池デイサービスセンター恒例の「ファッションショー」がある。昨年、あるおじいちゃんがどうしても女装したいということで、ウエディングドレスを着て女装をし、おばあちゃんの中で男になりたいという方が見えたので、タキシードを着てもらい、新郎新婦みたいにしていた。利用者さん一人一人が12月に行われるファッションショーを楽しみにされている。所長さんと園長先生が先頭切っているの、子どもたちも職員たちも乗せられている。
- ・豆まき会では、邪気を追い出し健康に明るく育ってほしい、これからも元気で長生きしてほしいと言う意味をこめて、保育園もデイサービスもそれぞれに豆まきをし、時々所長や園長先生が鬼や福になり、職員たちも一緒になって豆まきをしている。
- ・お別れ会は年長の子どもたちが保育園から小学校へ巣立っていくということで、卒園式の前にデイサービスのお年寄りと一緒に別れ会をする。そのときにお世話になりました、お茶出しをさせてくれてありがとう、お茶出しに来てくれてありがとう、という色々な思いを込め、子どもたちがプレゼントを作り、お年寄りも子どもたちに心を込めたプレゼントを作っている。ここでも暖かい交流が見られる。
- ・卒園式のときには、毎年職員も子どもたちも胸にとっても素敵なコサージュを着ける。布で作ったコサージュをデイサービスのお年寄りと職員の人たちが作っている。
- ・1ヶ月から2ヶ月に一度、アコーディオンを弾

かれる先生がみえ、子どもたちとデイサービスの利用者が一緒にアコーディオンを聴く。子どもが好きそうな歌や、お年寄りが好きそうな曲を前もって連絡すると、20曲ぐらい弾いたり、みんなで歌ったりして、楽しいひと時を過ごす。

***以下は交流会をすることによって、利用者が変わったこと**

- ・子どもさんがくると、利用者は元気がもらえる。
- ・認知症の方の表情も変わって、すごく笑顔になれる。
- ・運動会のメダル作成や、こどもの日祭りのカブト、コサージュ作りなど、保育園の子どもたちに対する色々な役割を持つことで、利用者には活気が出てくる。
- ・デイサービスの中ではコマを120個も作れないので、利用者さんがご自宅に持って帰って作ってくれたり、絵をかかれて子どもさんたちに見せたりと、すごく色々なところで活気が出ている。それが手先を使うリハビリにもなるため、最初、右片麻痺の方が左手で押さえながら塗り絵をしていたが、デイに來られて子どもさんたちに対して色々な役割を持つことで、今はもう、左手を使わずに右手で塗り絵ができるようになってきた。現在のところ折り紙も上達された利用者の方もみえる。
- ・女性の利用者で、家では活気がなかった方が、最近台所に立たれるようになり、時間はかかるが包丁を持って料理したりするまでのことができるようになってきたのも、やはり子どもたちがデイにくることで生きがいを持ったりできるという影響もあると考える。
- ・1ヶ月のお手紙を出すと、交流会の日が分かるので、利用者さんも「交流会の日の空きがあったら使わせてもらえないか？」という感じで聞かれる。枠があれば利用していただくことになるが、この様に子どもたちとの関わりをすごく楽しみにされている利用者さんもたくさんみえる。
- ・犬を今年の春から保育園で飼うようになったが、これもお年寄りが見に来たりして交流のひとつのものになっている。

- * 以下は保育園からみて、どのような利点があるか
- ・ お年寄りと日常的に触れ合うということで、優しさ、思いやり、慈しみの心が育つということである。例えば、プレゼントを渡したり、日常からお茶出しに行ったりということで、顔を合わせて、その中でまた一緒に遊んだり、絵を塗る中に混ぜてもらったりということをする中で親しみを持ってくる。
- ・ プレゼントを作るときや手紙を書くときは、保育士が方向性をつけなくとも、自然と「ずっと元気でいてね。」というような言葉が自然に出てくる。
- ・ どんな人も受け入れようという気持ちが自然に育つということである。これは保育園でも、障害の子どもがおり、小さい子もお年よりも、身内の方とか色々な方がよしいけ保育園に通っていると、出会う機会があるので、良い経験となる。
- ・ 4月・5月は認知症の症状が少し激しい人たちを見ると、子どもたちもビックリしたような表情だったり、固まってしまったりということもあるが、それが少しずつ交流していく中で、自然と受け入れていける。
- ・ 伝承遊びやふれあいを通して人と人の暖かい交流やお年寄りへの尊敬心を育むことができる。
- ・ よしいけ保育園には子育て支援センターもあるが、そこに伝承遊びとして、元気なおじいさんやおばあさんに来てもらって、お手玉などもしてもらい、子育て支援に来るお母さんにも伝えることができる。
- ・ 敬老会のときは、元気なおじいさんがコマ回しをしたり、お手玉をやったりして、子どもたちに教えてもらって特訓したりすることもある。
- ・ お茶出しをしていく中で、マナーを身につける機会となる。「ちょっとお待ちください」とか「どうぞ」とかなかなか子どもたちはやる機会が少ないと思うが、お茶出しをするときに覚えていき、テレビを見ている前では、わざわざ後ろを回る子が居たり、お年寄りの方が座ってから話しかけたり、ビックリしてしまうといけなかったのでしっかり顔を出してから挨拶するとか、そういうことが自然と身につけてきて、マナー

も守ることができるようになって来ている。

- * 以下は、デイから見た場合の交流に関する難しいことや限界といった部分。
- ・ 子どもと利用者さんでは年齢の差があるので、その中で共通点を見つけるということが難しいということと、行事の時間調整が難しい。
- ・ 保育園では午後からどうしても昼寝があるので、午前中が良いが、デイサービスでお風呂は午前中に入りたい利用者の数の方が多いので、デイサービスでは午後からレクリエーションをやってほしいので、時間調整がかなり難しい。
- ・ 利用者さんと子どもの人数調整が難しい。例えば新茶会のとき、手遊びをするのにペアになるが、人数が合わないとか、ある一人のおじいさんは子どもたちに人気なので、このおじいさんがどうしても良いという様に人気の利用者さんに子どもが集中してしまうことや、逆に子どもが全然寄り付かない利用者さんもいらっしゃる。
- ・ 子どもが嫌いな利用者さんもいる。
- ・ デイの職員は、子どもに注意するときにはどのように注意していいか分からない。例えば、デイの中で走り回っているときに走らないよう言っても、全然言うことを聞いてくれない。お茶出しにいったときにも、保育園の先生たちに注意をしてもらったりすることがある。
- ・ インフルエンザで交流ができず、子どもとデイサービスとの交流が中断している。利用者は子どもたちと触れ合うことを楽しみにされている方も多いので、今度会える日はいつだと楽しみにされている。
- * 以下は、保育園から見た場合の交流に関する難しいことや限界といった部分。
- ・ 時間を一緒に合わせる形で取りにくく、行事の時間調整が難しいということ。
- ・ 人見知りが強くて関わり方が分からない子がいるということである。おじいちゃんやおばあちゃんと手が握れない子が少しいる。
- ・ もっと小さい子でもちょっと人見知りが出てくると、おじいちゃんおばあちゃんたちの部屋に入っただけで号泣する子どももいる。
- ・ デイサービスの利用者さんが保育園に来て、関わり方が分からない子がいるということで、子

どもたちにどう関わっていいか難しいということがある。

- ・流行性の病気などで長期にわたり交流ができにくいことがあるということも問題である。
- ・子どもたちはインフルエンザとノロウイルスがある。子どもにとっては2-3日寝れば治るというもののだが、やはりお年寄りの方は肺炎になったり、起きることができなくなったりしてしまうと困るので、交流をあえて避けるということがある。
- ・保育園の先生が、利用者に対しての接し方が分からず迷惑を掛けることがある。利用者さんにより、対応の仕方や利用者さんに対しての接し方という情報をしっかりとつかんでないので、デイサービスに迷惑を掛けてしまうことがある。
- ・デイサービスの利用者がフラッと保育園に遊びに来た時、どう接したら良いのだろうか、どういう言葉をかけたら良いのかわからないことがある。

- ・保育園は保育の勉強はしてきたが、お年寄りに対しての勉強は全くできていない。職員が勉強していけばもっと交流がとれるのかもしれないというところはある。

6. アンケート調査の結果

視察後に行った卒業生へのアンケート結果を示す。まず、事前連絡する中で最も興味を持っていた内容(図1-1参照)についてはSトランスファー(6件)統合ケア(6件)24時間回想法(3件)教員との交流(1件)の順であり、卒業生同士の交流においては0件であった。

また、最も興味を持って参加した研修内容に対する満足度(図1-2参照)はそれぞれ非常に満足・まあ満足という回答から、一定の研修内容の質を担保することができたと考えることができる。

続いて、当日に参加してみて興味を持った研修内

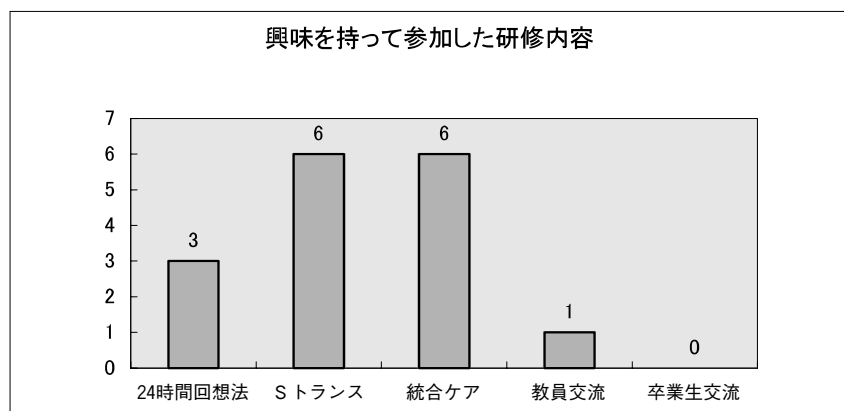


図1-1 最も興味を持って参加した研修内容 (N=16)

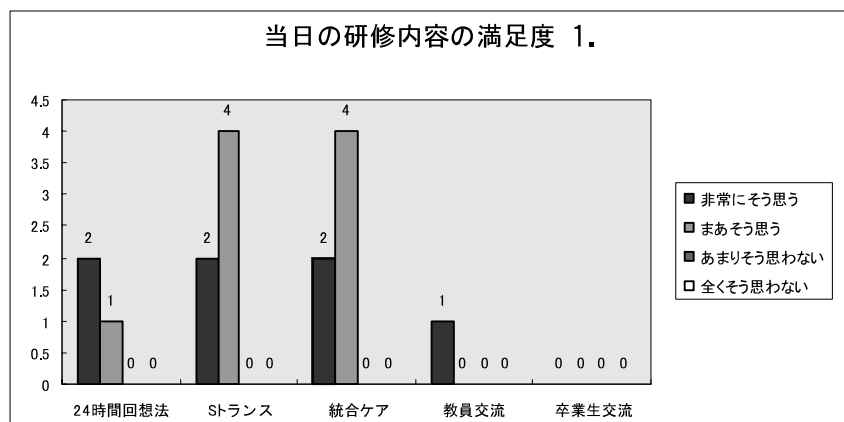


図1-2 最も興味を持って参加した研修内容の満足度 (N=18)

容（図2-1参照）としては、24時間回想法（11件）統合ケア（8件）Sトランスファー（6件）特になし（2件）卒業生同士の交流（1件）教員との交流0件であった。特になしと回答した卒業生のコメントとして、「今回の内容で充分満足」という意見が記載されていたことから、これらを総合してこの結果を捉えると、卒業生が高い意識を持ち、参加できたことを伺い知ることができる結果であった。

ではその満足度について尋ねると（図2-2参照）、24時間回想法を筆頭に、Sトランスファー、統合ケアにおいても満足度の高い結果を得ることができた。但し、卒業生同士の交流、教員との交流においては満足の行くものではなかったという結果を示すこととなった。

今回の研修において全体的な評価として（図3）高い満足度を得ることができたことから、卒業生に

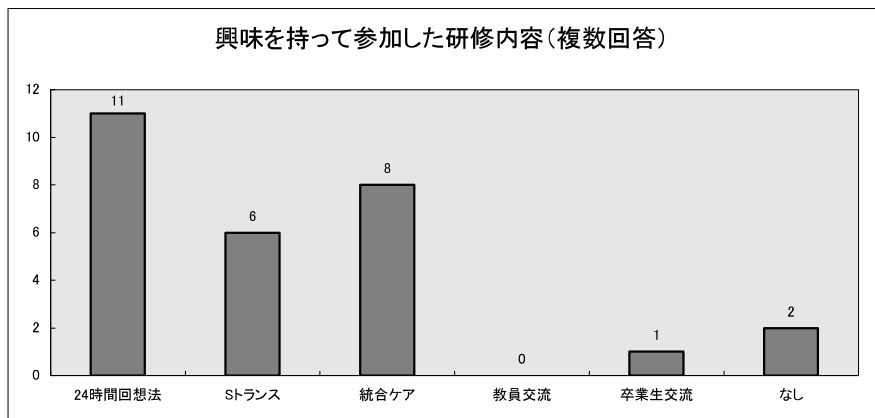


図2-1 当日興味を持って参加できた研修内容（複数回答 N=18）

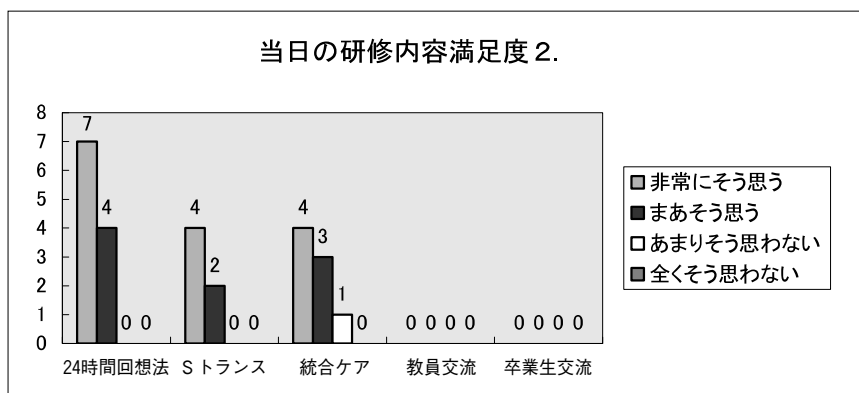


図2-2 当日の研修内容の満足度2（N=18）

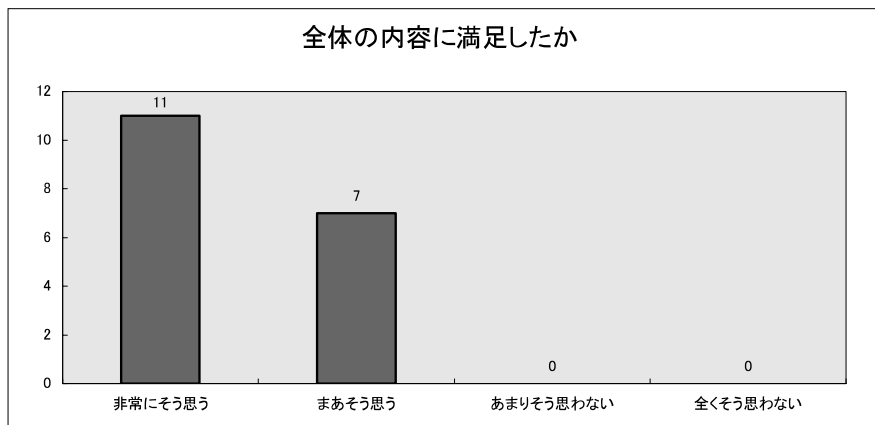


図3 研修全体の満足度（N=18）

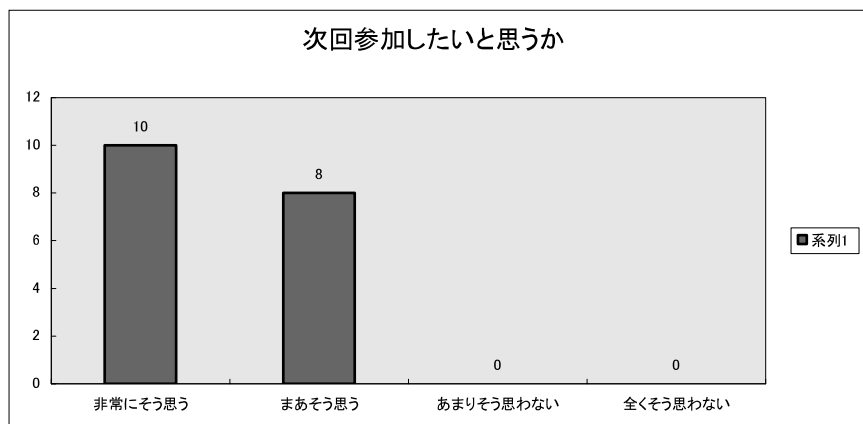


図4 次回参加の希望・意思 (N=18)

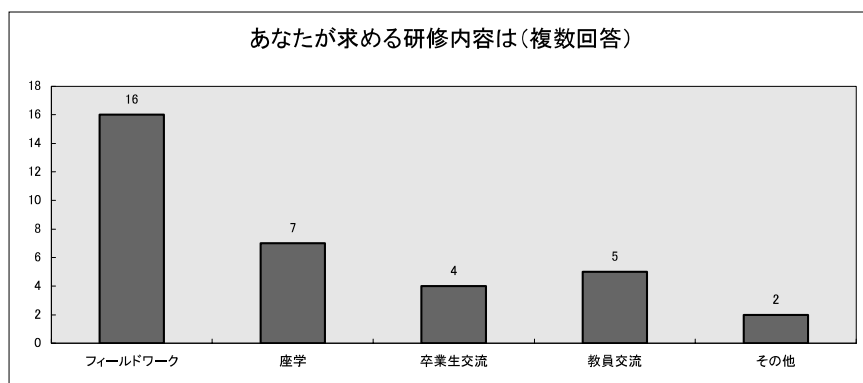


図5 あなたが求める研修内容(複数回答 N=18)

としては有益な時間と機会を担保するに至ったといえるだろう。

また次回参加の意向を確認したところ(図4)全体の満足度と同様に高い評価を得ることができた。このような結果から今回のフィールドワーク型のリカレント教育が有効であるという示唆を得るものであると認識することができるであろう。

次回開催のための基礎データ確保のために、卒業生の求める研修内容について意思確認すると、今回のようなフィールドワーク型(16)が最も要望として高く、次いで座学形式(7件)であった。また、今回の研修内容において低い満足度であった卒業生同士の交流、教員との交流を希望する意思を確認することができたことから、課題として認識することとなった。

7. 自身の職場への導入意思について (アンケート結果および自由記述から)

また、今回の研修内容について実際に自身の職場で取り組んでみたいか(図6)、について回答を求めた結果は以下の通りである。24時間回想法は「非常に思う」「まあ思う」合わせて3件であり、スーパーTRANSFERでは「非常に思う」「まあ思う」共に3件ずつ(計6件)の回答であった。老人子ども統合ケアは「非常に思う」は0件であったが、「まあ思う」が6件と多い傾向を示した。また教員との交流についても「まあ思う」が1件あった。卒業生との交流については0件であった。

また、この結果をふまえ、①自身の職場で取り組んでみたいものと②その理由、そして③そのことの導入の困難感と④その理由の4点について自由記述で解答を得た。その結果を示すこととする。

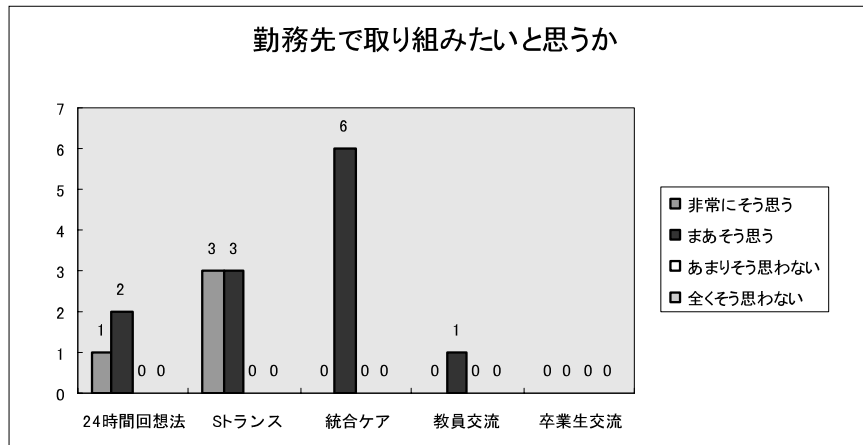


図6 職場で取り組んでみたい研修内容について (N=18)

①24時間回想法

②利用者の方から昔の話を聞くことで私たちも勉強になると思うから。昔のことを楽しそうに話しているのを見てすごいと思ったので。少しでも昔のことを思い出してほしいから。物や映像があった方が話がはずむから。回想法でADL向上にもつながるし互いに勉強できるから。

③非常に思う

④今の職場は建物が古く狭いため、そのような場所を作りづらい。

③まあ思う

④昔を思い出すような物の用意が難しい。

③非常に思う

④お金がかかる。人が足りない。時間が足りない。

①スーパーランスファー

②「腰痛予防」と「互いの負担軽減」になるから。利用者と職員の互いの負担が減ると思うから。腰を痛めないで介助できるから。自分も利用者も楽に移動したいから。施設で腰痛者が多いため。新しい技術でスキルアップでき、患者さんも楽になるから。自分の身を守るため。

③あまり思わない

④グループホームで、そこまでの重度の方はいないため。

③まあ思う

④はじめは、利用者様も新しい移乗方法に対して恐怖心があると思うので、それを取り除く(安心していただける)までに時間がかかりそうだから。

③非常に思う

④開設から年数がたっており、昔の行い方に満足し

ている職員が多いため。

③まあ思う

④自分がやりたいだけではなかなかできない。施設の方針などもあるので。

③非常に思う

④スタッフの認知度に問題あり。

③あまり思わない

④自分の体や周囲のことを考えて良いことだと思う。

③まあ思う

④まだ、入社してまだ半年のため、しゃしゃり出るのはどうかと思うため。

①老人・子ども統合ケア

②年齢の違う者同士で触れ合うことで互いに得るものがあると思うから。利用者にとって良いことや、実際働いているデイでも託児所の子どもに対してすごく利用者の反応が良いので増やせていけたらと思う。利用者に笑顔が増えると思うから。毎日が楽しく過ごせそうだから。近くに託児所があったから。

③まあ思う

④双方の調整の困難さと地域性、現場の特性に問題あり。

③非常に思う

④地の環境が良くないため。

③まあ思う

④子どもとの触れ合いが全くない施設で、やるとしたら一からのスタートだから。

③まあ思う

④ランスファーは導入できるが老人と子どもの毎日の交流は難しそうだから。

このように積極的に導入したい意向はあるものの、それぞれの職場での制約を事情に挙げながら、その困難さが記述される傾向が強くみられるという特徴が明らかとなった。

8. 今回の感想（自由記述）結果

また今回の研修に参加した感想について自由記述で回答を求めた。以下その結果を示すこととする。

- ・実際に現場を見せてもらえたことはよかった。職員さんと話をすることができたら本音や実際の思いが伺いたい。
- ・他の施設を見ることが出来てよかった。施設の雰囲気によって、利用者の方もそれぞれだなあ…と思った。「デイサービス」は、子どもとのふれあいがとても良いことだと感じた。自分の働いている所も隣が託児所なので、近いものを感じた。
- ・久しぶりに同級生に会えて楽しかった。高浜安立荘も以前実習で行った事があったので回想法の取り組みのことも知っていたが、そのときよりも新しくなっていたところもあったのでそこが見られてよかった。
- ・保育園とデイが一緒にあるというテレビを見たことがあり、実際に見てみたいと思い参加した。話を聞き、高齢者や子どもにも良いこと、生きがいを見ていることなどを見て学べてよかった。機会があれば実際の交流を見てみたい。
- ・今回の研修会に参加させて頂く事ができてとてもうれしい。普段なかなか知ることのできない他施設の見学が出来てよかった。卒業生との交流はグループに分けると、もっと情報交換がはずんだのではないかと思う。ぜひまた参加したい。岡短で一般公開できる講義等あれば卒業生にも開示してほしい。
- ・岡短で、回想法やトランスファー、老人と子どもと一緒に過ごしている施設があることなどを勉強してきたが、実際に見たことはなかったから、今回見られてよかった。でもまさか卒業してからいくとは思わなかったから驚いた。
- ・新トランスファーには驚いた。自分の施設に取

り入れていきたいと思う。

- ・大変勉強になった。今働いている施設でもできることがあれば行っていきたい。また参加したい。
- ・とても勉強になった。指導する側の今、新しく技術を習えてよかった。今の所は、研修に行く機会がないので、他施設の雰囲気が見られて勉強になった。
- ・普段、他の施設を見ることが出来ないのも勉強になった。同じ年の卒業生でも集まりたい。
- ・回想法は、自分が行っている施設でもとても使えるなと思った。
- ・全体的に来てよかったと思う。トランスファーも非常に参考になった。
- ・24時間回想法はTVで観て興味があった。子どもとの交流は以前から職場でできればいいと思っていたので理想的だった。こんな施設がたくさんあったら、ぜひ働きたいと思う。
- ・もう少し1つ1つの場所で、ゆっくり見学できたら良かったかと思った。利用者の方との交流も、もう少しできたら良かったと思う。

このように自由記述からは、今後のリカレント教育のあり方について示唆に富む指摘や意見、感想等が寄せられた。

8. まとめ

本報告は、介護職員として自己研鑽意欲の高い卒業生に対するリカレント教育の機会と場の提供を通し、その内容や具体的な実施方法の効果を明らかにするため、また介護福祉分野のOJT教育実践や研究に示唆を与えるために実施した取り組みであった。

今回選定した視察先の高浜市所在の3施設は、どれも先進的な実践により、介護福祉分野におけるより良い多くの有用な情報を提供してくれていたと考える。このことは参加者アンケートの結果から明らかである。

そして研修への卒業生の興味関心の高さも伺い知ることができることから、プログラムの設定においても学習効果があったものと捉えることができるで

あろう。しかし反面、卒業生との交流については高い満足度が得られていないが、求めるリカレント教育として卒業生同士の交流が挙げられていることから、この点のプログラムの改善・工夫の必要性が課題となった。さらには、研修内容を自身の職場で実施する意思があるのだが、その困難さを挙げている傾向がみられたことから、卒業生のマネジメント力の向上を図るようリカレント教育のプログラムも求められる要件であると認識させられた。

また多くの教育機関が実施している学校という場を拠点（社会資源）としたリカレント教育という運営方法から、地域の実践現場（社会資源）へ出向くフィールドワーク型のリカレント教育は、卒業生が体験的に学ぶ機会の質を、担保することができるひとつのリカレント教育のあり方として、意味を見いだすことができるといえるのではないだろうか。しかし今回、参加希望者を調整した背景があった。それは訪問先に多くの卒業生が行くことで、先方の業務等に支障を来たしてしまうことへの配慮からである。このようなフィールドワーク型リカレント教育では、卒業生の受講要望人数が多くても、実際は今回のような限られた人数とならざるを得ないことから、この点をどのように改善していくのかという課題が残るものであった。

今後も更に、本学科の運営方針である「積極的な地域貢献」の視点を軸とした卒業生にとって有意義なリカレント教育のあり方を検討し、具体化していくことを目指す所存である。

注

(1) 人間福祉学科では、過去2回（平成17・18年）にわたって卒業生を対象とした意識調査を実施してきた。仕事をする上で不足と感じている知識技術として「医学一般」「介護技術」「社会福祉」「老人障害者の心理」を挙げており、役立っている知識・技術として「介護（形態別介護を含む）技術」「老人障害者の心理」「リハビリ」「レクリエーション」を挙げている。この傾向は2回目の調査においても同様な結果を得ることとなったが、さらにケアマネジャーの資格取得を目指したい意向が示された。そして、

目の前にある課題を乗り越えるため、即座に求められる知識・技術の習得の必要性と、それらについて学生時に学べたことの意義を見出している結果が得られた。また、ケアマネジャー資格取得を目指したいという回答から、受験資格取得年数5年の実務経験を得るために、その間の介護の現場で働く意欲と共に、取得後の勤務継続の意欲もあることが分かった。

- (2) 回想法とは「高齢者の回想に対する見方として、昔を思い出すことにより自分の人生を整理し捉え直すという積極的で普遍的な行為であると意味付けたもの（ロバート・バトラー、1963）」であり、認知症高齢者の周辺症状の緩和・改善に期待がされているものである。高浜安立荘は、そのような状況を24時間切れ目無く提供していることで注目を集めている。
- (3) S（スーパー）トランスファーとは、「持ち上げない移乗介護」の技術として、青山幸広氏が提唱し、全国的にも採用がすすんでいる介護技術である。また高浜安立荘は青山氏を招き、その技術をいち早く、施設全体のものとして導入しようとした経緯を持つ施設である。
- (4) 老人・子ども統合ケアとは、広井良典によると「高齢者のケアと他世代（とりわけ子ども）のケアを統合していくことで、高齢者にとっても子どもにとってもプラスの効果が生まれ、より積極的なケアの姿が開けてくるのではないかという視点」を有した新たなケアの発想であり、取り組みである。

※本研究は、平成21年度岡崎女子短期大学課題研究費の助成を受けて行った研究であることをここに記載し、感謝の意と致します。

引用・参考文献等

- 1) 愛知県HP <http://www.pref.aichi.jp/0000007966.html>（2010年1月現在）。
- 2) 同上。
- 3) 鍋島恵美子 光野裕美子ほか「卒後教育の効果に関する研究—卒後教育を通し、介護福祉士の質の向上・学生への効果・教育のあり方を検討す

- る一」、介護福祉教育、No24、2007、pp. 53-60.
- 4) 澤田信子 峯尾武巳ほか『介護実習指導法』全国社会福祉協議会、pp. 182-185、2003.
 - 5) 蒲池千草 河津ゆう子「ケアマネジャーの職業意識とその課題」日本赤十字九州国際看護大学 IPR 第5号、pp. 32-38、2006.
 - 6) 広井良典編著『「老人と子ども」統合ケア—新しい高齢者ケアの姿を求めて—』中央法規出版 2000.
 - 7) 『障害者・高齢者への楽しみを使ったアプローチ』月刊 REC 特別増刊、31号、(財)日本レクリエーション協会 1999.
 - 8) 「平成17年度福祉研究所所報 創刊号」岡崎女子短期大学福祉研究所、2006.
 - 9) 「平成18年度福祉研究所所報 Vol.2」岡崎女子短期大学福祉研究所、2007.